

印象派—画家たちの友情物語

アーティゾン美術館(京橋) 2021. 10. 02~2022. 01. 10

印象派といえば「モネ」や「ルノアール」といった名前が浮かぶが、画塾などで知り合った仲間たちが、自分たちの作品を展示する場を求めて開催したのが、いわゆる「印象派展」である。例えば、「セザンヌ」は、若い頃に「ピサロ」とカンヴァスを並べて制作しており父のように慕っていて、また「ルノアール」は、「カユイボット」の遺言執行人として奔走したとされている。

展覧会の構成は、印象派の作品「40点」と芸術家の肖像写真コレクション「14点」で、これまであまり知られることのなかった画家同志の人間関係を手掛かりに印象画の名画を楽しめるという企画内容で楽しむことができる。

本展は、友情関係や子弟関係、夫婦関係などを含む画家たちの交流を“友情関係”とし、「マネ x モリゾ x ゴンザレス」「ドガ x カサット」「ピサロ x セザンヌ」「カユイボット x ルノアール」「ゴッホ x ゴーガン」「ブラックモン夫妻」「モネ x シスレー x シャニック」の7つの物語で構成されている。

マリー・ブラックモン 《セーヴルのテラスにて》1880年



女性画家ならではの感性がなせる業なのか、さざ波のように細やかなタッチが画面全体を包み、春の暖かい濃密な空気が息苦しい程に伝わってくる作品である。三人の人物が夫々の思いを抱えているようでもあり、その微妙な距離感が繊細に描き出され、丁寧に陽光と色彩が表現されている。

フィンセント・ファン・ゴッホ 《モンマルトンの風車》1886年



巨匠がパリ時代に風車を描いた作品は「20点」程あるが、この頃モンマルトルの風車は本来の役目を終え、わずかの風車が残っただけだった

有名な「ムーラン・ルージュ」の開店は1889年のことで、ゴッホがアルルを立った後であるが、友人の「ロートレック」は、ここをモチーフにして多くの作品を描いた。画伯が描いたこの作品は、華やかな世界ではなくて、丘の上にぽつんと立つ静かで寂しい情景の中の風車で、色調はまだ暗いが沈んだ色彩に透明度が加わっている。